

# 運転能力低下の兆し警告

東北大発スタートアップのNeU（ニュー、東京・千代田）は損害保険ジャパンなどと業務提携した。物流やタクシー会社などに、運転手の認知機能を訓練するサービスの提供を拡大する。運転手の高齢化は一段と進んでおり、事故防止の需要を捉えて新機能も開発する。

損害保険ジャパンの法人顧客網を活用し、2026年度をめどに1000社への導入を目指す。ニューは脳科学を研究する川島隆太・東北大教

## 事故データから開発



東北大発のNeUはドライバー向けに認知機能訓練サービスを提供する

授の研究成果を基に、17年に創業した。日立ハイテクが持つ脳計測技術を開発している。23年から自動車運転に特化した認知機能の訓練サービスを社など約10社が利用している。利用者は脳を測定する機器を額に装着して、タ

レット端末でゲームに取り組む。連続で素早く計算したり、指定の道路標識を素早く見つけ出したりし、運転能力に関わる脳の活動を測定する。ゲームの結果と合わせて分析し、脳年齢を提示する仕組みだ。

24年度中にはドライバーの認知機能低下の兆候を捉えて、警告する機能を開発する。損害保険ジャパンが保有する事故発生のデータやドライバーのデータを組み合わせて、事故が起きやすい脳の状態を見つけ出す。その日の脳の状態に応じて、事故多発地域に近くとアラートを出す仕組みなどを構想している。